

平成26年度文部科学省委託事業
「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」
(学校・家庭・地域の連携協力推進事業)

事業報告書

I 事業の背景

1. 趣旨
2. 別府市における教育課題
3. 別府市立石垣小学校教職員の意識

II 事業の概要

1. ワーキンググループ協議の開催
2. コミュニティ・スクール推進委員会と学校の協働の取組

III 別府市立石垣小学校実践報告

1. 地域バンクの作成とネットワークづくり
2. 教育課程内の学習支援の事例
3. 学習困難児童の放課後学習支援の取組

IV 別府市内への普及

1. 別府市立石垣小学校コミュニティ・スクール「推進委員会」の公開
2. 別府市立朝日小学校放課後児童クラブへの普及
3. 「協育」カタログの充実

V 事業のまとめ

＜再委託先＞

特定非営利活動法人 大分県「協育」アドバイザーネット

事業報告書

I 事業の背景

1. 趣旨

別府市は、平成27年度、28年度の2年間で全ての小中学校をコミュニティ・スクールに指定するとして、現在、全ての小中学校に「コミュニティ・スクール推進委員会」を設置してその準備を進めている。本事業の中心的な別府市立石垣小学校は、平成26年度～27年度の2か年のモデル校として指定を受け、平成28年度から学校教育規則に準じるコミュニティ・スクールに指定されることになっている。本事業はコミュニティ・スクールを立ち上げる段階での具体的な取組の調査研究として実施した。

2. 別府市における教育課題

別府市における近年の子育ての現状は、子育てに関わりが薄い親の増加や地域住民の子どもへの関心が希薄になるなど、子どもを育てる家庭環境・地域住民の意識が十分とは言えない状況の中、下記の教育課題の中で、学校教育に集中した教育を過度に期待している現状が伺える。よって、「地域の子どもは地域で育てる」という原点に立って現状を振り返り、学校・家庭・地域住民がそれぞれの役割を果たすとともに、互いに連携・協力して、コミュニティ・スクール導入による、質の高い学校づくりを目指すことを目指しており、そのための推進方策を模索している現状がある。

ア. 学力向上及びキャリア教育の推進

→地域にある大学や住民の学習活動への支援、ボランティア活動への協力、職場体験の受け入れ・指導など、地域からの積極的な支援活動が望まれる。

イ. 「いじめ」「不登校」「問題行動」の解消

→家庭や地域において放課後や休日等の児童・生徒指導体制（システム）づくりや、年間を通した「安全・安心・環境浄化」の支援活動が望まれる。

ウ. コミュニケーション能力と体力の向上

→家庭や地域において日常的なコミュニケーションを図ることや、部活動・保健体育科授業への専門的指導者による支援活動が求められる。

3. 別府市立石垣小学校教職員の意識

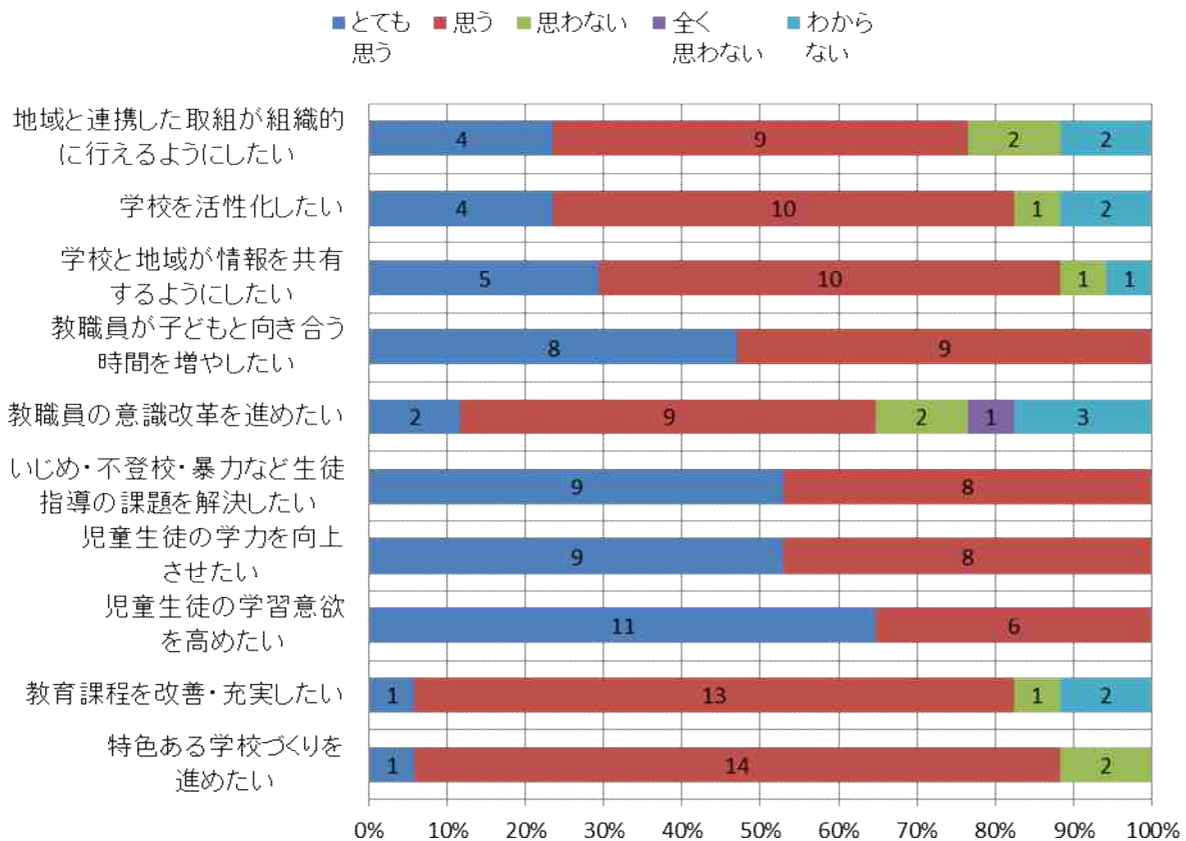
別府市立石垣小学校（以下「本校」という）のコミュニティ・スクール導入に関する学校関係者と外部関係者の事前の協議を平成26年3月から始め、学校教育課題の整理と、それに対応するためのコミュニティ・スクール導入に関するテーマについて協議及び具体的な取組をおこなってきた。

図1及び図2は、本校教職員を対象にした意識調査を示したものである。現状でそうになっている事なのか、現状での課題であるからなのかは不明であるが、今後の学校教育を進める上での方向性を示していると考えられる。

図1は本校の教職員が目ざす学校像である。「児童生徒の学習意欲を高めたい」「学力を向上させたい」「生徒指導上の課題を解決したい」「子どもと向かい合う時間を確保したい」などは全ての教職員が願っている事であり、至極当然であろう。「教職員の意識改革を進めたい」を除くほとんどの項目においても、前向きな願いを持っていることがわかる。

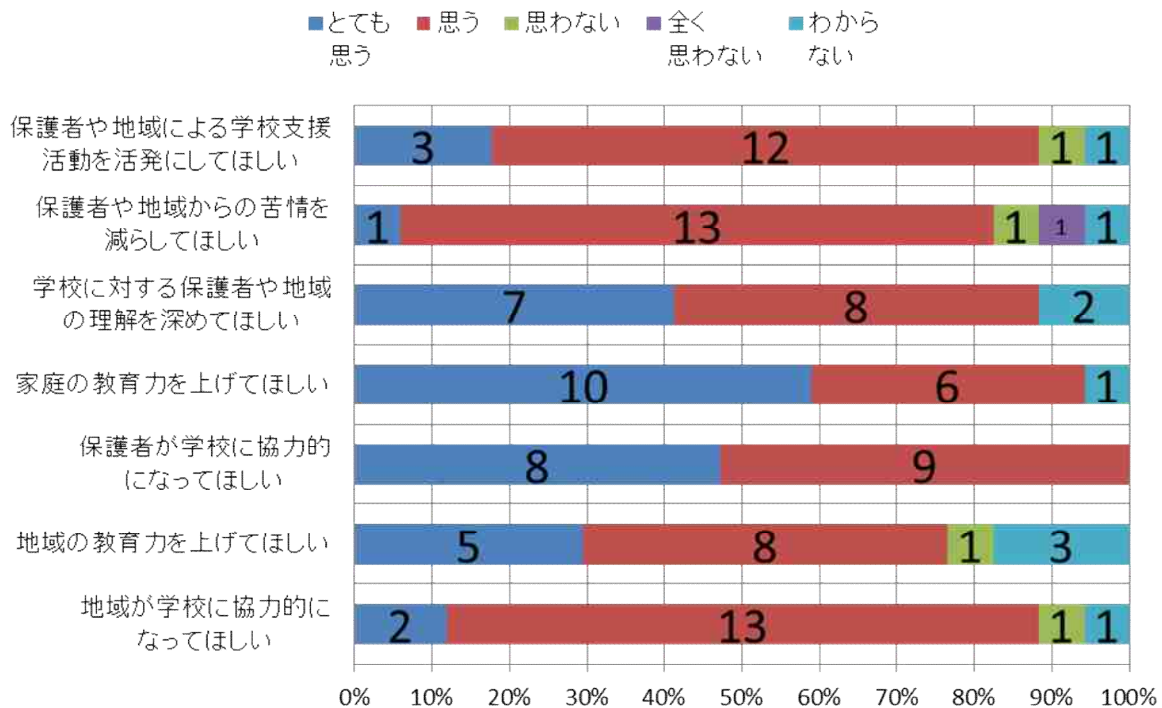
図2は学校教育を進める上での保護者や地域住民への願いを示したのものである。「保護者が学校に

図1：石垣小学校教職員「目指す学校・教職員(N=17)」



協力的になって欲しい」は全ての教職員の願いで、その他の項目においてもほとんどの教職員が多く

図2：保護者や地域への願い(N=17)



の願いを持っていることがわかる。

Ⅱ 事業の概要

1. ワーキンググループ協議の開催

＜第1回ワーキング協議内容＞

日 時：平成26年11月17日（月） 14：00～16：30

会 場：別府市立石垣小学校校長室

参加者：中川忠宣 栗田典年 河野智篤 太田慎一 丸山野愛子（WG 委員）

縄田早苗（石垣小推進委員） 矢野淳子（石垣小教頭）

江口清美（事務局）

協議内容

(1) コミュニティ・スクール拠点コーディネーターの役割（協議内容に沿って説明）

＜設置目的＞

- ・話し合ったことを具体的に動かしていく役目。教頭先生と高橋先生と共に活動する。
- ・教員がコーディネーターとして役割を持つと地域も直接伝えにくい事例もあるが、民間コーディネーターだとワンクッションになる場合があるので、関わりが円滑になるという報告がある。

＜役割・仕事内容＞

* 学校内

- ・個人情報を守る。
- ・教職員への情報提供をプリントや口頭でもよいので活発に行う。

* 地域内→人材 各種教育資源等のバンクの作成

- ・これが一番大きなこと。地域の個人や団体、組織とネットワークを作り今後に繋がるように基本（引き出し）をつくる。
- ・住民へのCS情報提供として、チラシを作成して配布予定。

(2) 推進体制作りのための学校の役割

- ①学校が求める支援内容を整理する。
- ②担当教員教職員の要望を整理してもらう。各クラスで何をするのか、トータル的に教育課程の中に取り入れる。今現在、実施していることを整理しておく。
- ③コーディネーターと公民館との依頼システムをつくる。
- ④コーディネーターの居場所づくり
 - ・コーディネーターの紹介を教職員にする。・名刺の作成。
- ⑤各種資料の整理
 - ・学校として、運営協議会としても必要。

(3) 今年度の取組

①学習支援活動について

- ・12月3日に学習教材の使い方の説明会があります。（算数の教材）
- ・参加者は、4年生の担任教師、大分大学と別府大学の学生、退職校長会より数名予定。

②推進委員会の公開について

- ・1月27日の推進委員会では、現在している評価などをどう整理するのかなどCSとしての課題を

どう見るのか熟議する様子を公開します。

委員：評価をするのは自己評価ですか？

委員長：関係者評価です。その取組によって何が変わったかを評価して、推進委員の自己評価に活かします。CSとして活動したものを評価します。今年は評価項目を考えます。

委員：私達が何かをするということが明確になっているのかが自分自身がよく分かっていない。夢はある。こんな事ができるといいなということは出ているけど、これをやっ払いこうという具体的なものが作り上がっていない。この状態で評価項目を考えるのは雲をつかむような気がする。

委員長：この取組をしてどんな子どもを育てていきたいのか、具体的なことに対する評価はまだ先になる。「こんな子どもになってほしい」というものが評価規準になる。

委員：私達が目指す石垣っ子はどんな子どもなのか…ということを考え、こんな子どもを育てていこうとする熟議が必要。評価という言葉を使うと違ってくると思う。

委員長：CSが目指す子ども…。それを1月に整理します。その後に取組としてやる順位を決める。学校評価とは分けて、どんな子どもを目指すのか、CSが目指す子ども像も含めて、来年度の学校の目指すものも反映されると思う。

委員：今までザックリと話し合っただけなので、もっと煮詰めて何をするのかを決めるのですね。

③各種団体や機関とのネットワークについて

委員長：取組をしていくために、地域と保護者と共にやっていくために、どんな組織や団体とネットワークを繋げていくか？という支援組織との繋がり方の意見を出してください。

委員：自治会、育成協などがあるが、「育成協」の活動はどんなものがありますか。育成協のメンバーは？

教頭：おにぎり大会が主です。石垣祭りに参加してくれています。あとは愛パトや挨拶運動。メンバーは、自治会、老人会、子ども会、公民館、中学校、民生委員、PTA、警察、主任児童委員、保護司、体協、社協、交通指導員、自治公民館長、補導員、石垣幼、別府っ子育成推進委員などで構成されています。

委員長：育成協には、事務局として動いてもらうことがあるかもしれない。組織のネットワークを使わせていただくことがあるかもしれないと、11月20日に挨拶に行きこのスタンスを説明します。今まで以上に石垣小を支えてもらうためです。先ずは取組を広めて啓発することを目指します。今後の目標を持つ事が大切ですが、しかし現状をきちんと把握して、将来の変化を目指すようにする。

委員：育成協とコミュニティ・スクールの違いって何ですか？同じようなメンバーが同じようなことをしているように感じますが…。管轄も同じ文科省ですか？

委員長：文科省でも育成協は生涯学習局、コミュニティ・スクールは初中局であり部署が違う。育成協は地域が子どものために汗をかこうというもので、コミュニティー・スクールは、学校から地域に願いを伝え、地域の願いと一緒に子育てをする取組でしょう。それぞれの団体には目標があって、その中で、子どものことに関して関わるのが育成協。コミュニティー・スクールは学校運営方針を承認したことを地域の力で協力するものです。

委員：コミュニティ・スクールは学校に、地域に何を求めているのか？石垣小は地域力が弱いと感じる場合があるので、本当にできるのか不安です。多種多様な働きかけをしないとこの地域はまわらない。コミュニティ・スクールと育成協が将来は重なるようになって欲しいと思う。

委員：本来は地域の中に同じ目的でネットワークをつくる組織は2つも3つも要らないが、まだコミュニティー・スクールが機能するまでに時間が必要だろう。それまでの間に育成協などの力を借りながら、これから組織外の人も関わってもらうことによって、多くの人に学校運営に

も協力してもらうことが大切なんです。1割の人が推進し、1割の人が同意する（2割が動く）ことでも良いと思う。「蟻の理論」です。

委員：各組織に得意な分野がある。それぞれの強みを生かして活動することができる。例えば、子ども会を巻き込むと参加する子どもと親、祖父母も出てくる場合がある。運動会も沢山の参加がありました。

委員長：第5回の推進委員会議（12月3日）では組織づくりを協議しましょう。

④啓発チラシの作成について

委員：コミュニティ・スクールの説明は「文科省のホームページより」をいれたり、裏の空白の部分には、各部からそれぞれ書いてもらう、問合せ連絡先も必要などがあり、推進委員会で相談しましょう。

委員：このチラシを配布して、公民館のボランティア募集と同じような感じがするが何か効果が得られるのかが心配です。チラシの目的を明確にしましょう。

委員長：まずは取組みを地域に広めて啓発すること。そのためのチラシにしましょう。現在支援している活動の写真も掲載すると、こんな事をやるんだとイメージし易いと思う。

委員長：以上で終了します。

<第2回ワーキング協議内容>

日時：平成27年2月19日（木） 16：00～17：30

会場：別府市立石垣小学校校長室

協議内容：コミュニティ・スクール運営の実施状況について

参加者：中川忠宣 栗田典年 太田慎一 丸山野愛子（WG委員）

縄田早苗（石垣小推進委員） 矢野淳子（石垣小教頭） 高橋秀樹（石垣小主幹教諭）

安達美和子（事務局）

協議内容

コミュニティ・スクール拠点コーディネーターの活動について丸山野愛子（本事業での実験的コーディネーター）の報告があった。

○以下の業務を行ったが、CS推進委員会の運営業務は、学校担当者及び推進委員長が行ったため、関与は少なかった。

<仕事内容>

(1) 校内

①教職員のニーズ、学校の現状把握のためにアンケートを取り、具体的な取組みの打ち合わせを行った。

②担当教諭と協力して、教職員への地域情報（例：人材・教材・イベント等）及びCS情報の提供をした。

③地域と繋いだ、体験授業や読み聞かせの充実などの教育活動を実施した

質問：教職員の意識について

回答：課題としては、教職員のニーズが把握等を通して、まだ、教職員がCS像や、CSの効果、取組のシステムが理解できていないことがわかった。

(2) 地域内→人材（個人・団体・組織）各種教育資源等のバンクの作成

①教職委員のニーズに対応するための人材（団体）への依頼を行い、リストを作成した。

・石垣地区（8地区）自治会長会、青少年育成協議会、公民館（学校支援事業）、PTA等への依頼

や協議を行った。その他、様々な団体等との話をしたが、理解を得られるための努力が必要である。

②全家庭への「CSが始まりました」のチラシを配布した。

質問：学校支援事業を行っている公民館の協力への反応はどうか。

回答：公民館は人材の派遣事業を行っているの、登録していく人材の紹介及び派遣の事業を行う。

質問：その他の団体等はどうか。

回答：老人クラブ等は、多忙のため協力は難しい等の話があった。

(3) 推進体制作りのための学校の役割について担当教員からの報告があった。

①コーディネーターとともに、教職員のニーズや年間の地域からの支援活動等について整理した。

②日常的な教育活動を取り入れた。

③コーディネーターの居場所づくりをして、活動をしやすくした。

④必要に応じて、推進委員会の内容の報告や公務分掌の担当教員に推進委員会への参加を促した。

(4) 推進委員会の業務としての報告があった。

①推進委員会の資料ファイルを作成し、各委員に配布し、委員会資料のファイル化をお願いした。

(5) その他

委員：子どもの体験活動が不足している。自治会と学校がもっと協力できることがありそうだ。

※事務局から、学習困難児童の放課後学習の取組の概要が報告された。

2. コミュニティ・スクール推進委員会と学校の協働の取組

(1) 専任コーディネーターとしての活動実績

1) 学校教育課題に対応する学校教育活動への支援活動に関すること

ア 教職員のニーズ、学校の現状把握

(活動実績) ①アンケート調査実施

②教職員への口頭による聞き取り調査 ③学校教育課程の読み込み

(成果) ①ニーズとしてあがったものは

- ・登下校時の見守り
- ・図書室支援、読書支援
- ・生活科の校外学習の付き添い、補助
- ・理科の実験、観察の補助
- ・飼育栽培委員の児童との花壇作り

②大多数の教職員にはニーズはあまりないことがわかった。

③各学年のカリキュラム（特に3学期）を把握することができた。

(課題) ①教職員が非常に忙しく、ニーズ把握をしようにもコミュニケーションがなかなかとれない。

②教職員がCS像をつかめておらず、地域の力を活用するイメージを描けていないため、ニーズがあがらない。

イ 教職員への地域情報（例：人材・教材・イベント等）及びCS情報の提供

(活動実績) ①1年部「昔の遊び（生活）」、3年部「昔の道具調べ（社会・総合）」「そろばん（算数）」の地域人材紹介

②3年部「昔の暮らし調べ（社会）」での、教材（神社・祭り）情報提供

③花壇作りについてレクチャーしてくれる地域人材紹介

④6年部「日本の伝統楽器（音楽）」お琴を演奏、指導できる地域人材を紹介したが、授業時数の都合で実施はできなかった。また、音楽集会での披露を6年部教職員から提案されたが、すでに集会の容量が多かったため、この案も実施できなかった。

(成果) ①地域人材を活用するよさを教職員にアピールできた。

②教職員に、カリキュラムにそった地域教材の情報提供ができた。

(課題) ①教職員が多忙のため、情報提供する時間確保が難しかった。

②教職員の時間に合わせ、1日のうちに何度も学校に行くことがあった。
→時間が合わずメモを残して伝えることが多かった。

ウ 教職員への「地域情報・教材」活用アイデアの提案

(活動実績) なし

(課題) ①教職員が多忙のため、情報提供する時間確保が難しかった。

②各学年の具体的な学習計画把握ができなかったため、地域情報・活用のアイデアを練ることができなかった。

2) 各組織との連携に関すること

ア CS事業実施組織・団体調査

(活動実績) CS事業が決まっていないため、組織・団体としての調査はできなかったが、今後事業協

力してもらえそうな組織・団体調査を、中部地区公民館の協力を得て行った。

(成果) リストを作成

(課題) 今後展開されるCS事業により、さらに組織・団体を増やしていく必要がある。

イ 公民館や各種学校支援組織とのネットワークづくり

(活動実績) 自治会、青少年健全育成協議会、読み聞かせグループ、民生委員会議訪問

(成果) CSについての概要について説明をし、今後の協力を依頼することができた。

(課題) CSとしての取組が具体的にまだないため、ネットワーク構築はできていない。

ウ 地域情報収集（人材、教材、イベント等）

(活動実績) 地域内の核となる人材宅や神社等を訪問し情報収集を行った。

(成果) 人材リストを作成

(課題) 学校のニーズにあった人材・教材情報を得ていかねばならないが、ニーズ把握ができないため、どのような情報を得ていけばよいか未だよく見えない部分がある。

エ 住民（組織・団体等）への教職員ニーズに応える人材・教材提供依頼

(活動実績) ①石垣東地区老人会あづま会、吉弘神社等の組織や地域住民への依頼を行った。

(成果) 校区住民ではない人材情報を提供してもらえ、実際に学校支援に協力してもらうことができた。

(課題) 提供を依頼しても、CSについての理解を十分に得られていないため提供してもらえなかった。さらにCSについての理解を広めていく必要がある。

オ 住民へのCS情報提供

(活動実績) 啓発チラシを作成し、石垣校区全戸配付を行った。

(成果) 一斉啓発をすることはできた。

(課題) 上記エにもあるように、チラシ配付を行っても、十分な理解はできていない。今後は、CS活動の現状や学校支援の様子等を発信していく必要がある。

(2) 推進体制作りのための学校の取組実績

1) 学校が求める支援内容に関すること

「学習する意欲が低い。体験活動の不足」「異学年のつながりが薄い。地域の大人とのつながりが少ない」「学校外での生活情報が見えない。虫歯の処置率が異常に低い」という学校教育課題に対して、それぞれ、「夢」「心」「命」の3つのコミュニティをたち上げ、出来ることから取り組んだ。

①「夢」のコミュニティでは、放課後CS学習会で大学生を中心に、4年生に対して学習支援を行った。また、教職員に学習補助が必要な活動のアンケートをとり、その中からCSコーディネーターを介し、3年生の「七輪パーティ」（総合）等ゲストティーチャーを招いた活動を行った。

②「心」のコミュニティでは、運動会における石垣校区青少年健全育成協議会種目の改善を行った。また、地域の子ども会への加入促進の取り組み並びに情報発信、地区児童会の発足を予定している。

③「命」のコミュニティでは、学校外の情報を収集するために、自治会をはじめ各種団体へお願いをした。（推進委員長、校長、推進委員等）また、情報の発信をしていく。（学校新聞、PTA新聞、HP等）歯の健康については、虫歯のアンケートをとり、歯科医の情報をまとめるとともに保護者への啓発をしていく。

2) 日常的な教育活動への支援内容について

- ・教職員のアンケートをもとに、CSコーディネータと協働して教育活動支援内容を作成した。
- ・教育活動支援内容に沿って教職員がCSコーディネーターに依頼する。その後CSコーディネ

ーター、公民館等関係団体と打ち合わせをして決定という流れで行った。

3) CSコーディネーターの居場所づくり

①職員室の学校用パソコンの席を確保した。

②職員朝会場で、コーディネーターを紹介した。その際、ゲストティーチャーや学習補助が必要な場合、コーディネーターに相談をしていくことやコーディネーターが各クラスを参観し、必要な補助について教職員に提案していくことを周知した。

③コーディネーターと担当教員の打ち合わせについては、学校に来た時や電話で行ってきた。

4) 各種資料の整理

①推進委員会資料等のファイル化

- ・推進委員会での協議事項については、その都度ファイルに綴じられるようにして配布した。また、各コミュニティ毎にノートを作り、話し合いの内容を記録した。
- ・各種取り組み内容については、ファイルしている。

(3) 本校のコミュニティ・スクール推進委員会の開催の流れ

学校教育課題へ対応するために、推進委員会立ち上げまでの「企画委員会」「準備委員会」を含めて、以下のように進めてきた。

1) CS推進委員のための企画的会議の取組

1) -①第1回企画会（H26年2月13日（木））

○出席者 中川（大学教授） 江口（NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット）
校長 教頭 教務

○中川教授よりCSについての概要説明を基にして

- ・コミュニティ（部会）を3～4つくることを確認
- ・縄田社教主事にメンバーに入ってもらふことの要請

1) -②第2回企画会（同3月14日（金））

○出席者 中川 江口 縄田（社教主事） 校長 教頭 教務

○学校教育課題の整理

- ・安全、健康等のコミュニティ
- ・学力保障、キャリア教育等のコミュニティ
- ・情操教育、コミュニケーション、人権等のコミュニティ
- ・親育（家庭教育等）のコミュニティの4つに決定

○誰を推進委員にするかの話し合い

1) -③第3回企画会（同5月2日（金））

○出席者 中川 江口 縄田 松丸（市教委 指導主事） 校長 教頭 教務

○先進校の取組の研修

○推進委員の推薦

1) -④第1回CS準備会（同5月12日（月））

○出席者 中川 江口 縄田 河野（PTA会長） 丸山野（主任児童委員） 釘宮（企業役員）
菅（企業役員） 校長 教頭 教務

○どういう団体（役員）が推進委員で入るとよいかについての熟議

- ・推進委員の推薦→選考→決定→要請
（5/19 石垣小校区育成協総会で自治会長、老人会長に依頼）
- ・コーディネート機能をどうするか。（保留）

1) -⑤第2回CS準備会（同5月30日（金））

○出席者 中川 丸山野 釘宮 菅 太田（自治会長） 三浦（自治会長） 山邊（老人会長）

佐藤（団体役員） 教頭 教務

○CSの概要説明と質疑・協議

○学校教育に関する協議

- ・教頭より学校教育目標等についての説明
- ・教務より学校関係者評価にかかわる評価項目、児童アンケートについての説明と承認

○CSの取組としてのテーマの整理

①「夢」のコミュニティ

ふる里（地域）を地域の人（産業・文化・自然・歴史）から学ぶなどして、学ぶ喜びに気づくことをとおしての学力向上とキャリア形成の教育活動行う。

②「心」のコミュニティ

子ども同士、子どもと大人の交流のをとおしてコミュニケーション力を育て、「人を思い、自らを大切にする子」の育成の取り組みを行う。

③「命」のコミュニティ

児童自らの健康作りと、安全・安心な地域作りをとおして「命」を守る取り組みを行う。

④「親育」のコミュニティ

家庭教育は「私的な教育」ではあるが、保護者は一生我が子の「夢」「心」「命」を守り、育てる義務を担っており、「出来ない」から「しない」ではなく、「子ども育ち」を支える「親の出番」に気づくための学びの機会を作る。

1) -⑥第4回企画会（同6月30日（月））

○出席者 中川 縄田 校長 教頭

○CS推進委員会の進め方、準備するものについて協議

- ・部会（研究部、生徒指導部、特活部）、各学年会において「石垣小の課題」と「地域の中で取り組んでいただきたいこと」を話し合うことを確認

1) -⑦第5回企画会（同7月23日（水））

○出席者 中川 縄田 校長 教頭 教務

○第1回CS推進委員会の内容について協議

2) CS推進委員会の取組（推進委員会開催のための企画委員会も含む）

2) -①第1回CS推進委員会（同7月28日（月））

○出席者 中川 縄田 河野 丸山野 釘宮 菅 太田 三浦 佐藤 今石（別府子育成推進委員）
矢野（市教委 社教主事）校長 教頭 教務 研究部部長 生徒指導部部長代理
特活部部長 各学年主任 養護教諭

○石垣小の現状と課題について資料を基に各担当教員から説明

- ・石垣小の現状と課題を4つのコミュニティ（命、夢、心、親育）を確認し、命、夢、心について参加者に一番関心のある話題でグループ分け
- ・それぞれのコミュニティにおいて「地域の願い」や「現状」「地域で取り組みそうなこと」について熟議

2) -②第2回CS推進委員会（同8月26日（火））

○出席者 生重（特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長）

中川 縄田 河野 丸山野 釘宮 菅 太田 三浦 佐藤 今石

大鳥（市教委 参事） 小原（市教委 指導主事） 赤峰（市教委 参事）

丸山（中部地区公民館 コーディネーター）

校長 教頭 教務 研究部部長 生徒指導部部長 特活部部長 各学年主任

○第1回CS推進委員会での石垣小の現状と課題からのCSのテーマに関する熟議

- ・命のコミュニティで二つ選んで地域で取り組めることを話し合う熟議のやり方を提示し、各コミュニティで熟議。その後交流を行った。

1) -⑧第6回企画会(同8月26日(火))※第2回CS推進委員会終了後

○出席者 中川 縄田 丸山野 生重 校長 教頭 教務

○コーディネーター役に関する協議

- ・推進委員の丸山野委員依頼、決定

2) -③第3回CS推進委員会(同9月19日(金))

○出席者 中川 縄田 河野 丸山野 釘宮 菅 太田 三浦 佐藤 今石 安達
校長 教頭 教務

○「命」「夢」「心」の各コミュニティの活動計画案について熟議

- ・何ができるのか、何からしていくのかを委員のみで協議

1) -⑨第7回企画会(同10月14日(火))

○出席者 中川 丸山野 江口 校長 教頭 教務

○第4回CS推進委員会の進め方について協議

2) -④第4回CS推進委員会(同10月21日(火))

○出席者 中川 縄田 河野 丸山野 釘宮 菅 太田 三浦 佐藤 今石 安達
猪俣(総合教育センター所長) 小原(市教委指導主事) 校長 教頭 教務

○各コミュニティの活動について全体協議

[命のコミュニティ]

今やっている活動をどう使っていくか。(育成協、PTA等)

[心のコミュニティ]

地区児童会を長期休業の前にしていきたい。しかし、地域では、自治会に加入しないと子ども会に入れないという実態があり、学校と地域の連携がとりづらい。



学校の地域本部が必要(企画・実施委員会を明確にして呼びかけをし、集めていく)

[夢のコミュニティ]

地域の歴史をはじめ、ゲストティーチャーに来ていただきたい授業内容を一覧表にまとめたが、公民館と連携したり、地域の方に発信したりしていくことが必要。

○情報発信については、チラシを作成するとともに、各組織、団体への協力依頼を進めて、連携していく取組を進める。

1) -⑩第8回企画会(同11月17日(月))

○出席者 中川 江口 校長 教頭 教務

○これまでの協議の整理と課題の整理

- ・学校が求める支援内容を整理する。
- ・コーディネーターとの連携、学校での居場所づくりについて
- ・第5回CS推進委員会の内容について

2) -⑤第5回CS推進委員会(同12月3日(水))

○出席者 中川 縄田 河野 丸山野 釘宮 菅 太田 三浦 佐藤 今石 安達
校長 教頭 教務

○これまでの協議の整理と今後の取組に関する協議

- ・各コミュニティのキャッチコピーについて
- ・CS啓発のチラシについて
- ・石垣小の連携組織について

1) -⑪第9回企画会(同1月21日(水))

○出席者 中川 教頭 教務

○第6回CS推進委員会（別府市の各学校の関係者への公開）の打合せ

- ・第6回CS推進委員会の資料について
- ・第6回CS推進委員会の進め方について

2)－⑥第6回CS推進委員会（H27年1月27日（火））

○出席者 中川 縄田 河野 丸山野 釘宮 菅 太田 三浦 佐藤 今石 安達
校長 教頭 教務 生徒指導部長 研究部代表 特活部代表 養護教諭

○参観者 23名（別府市内の教職員及びCS推進委員、教育委員会関係者）

○公開推進委員会の内容

①石垣小コミュニティスクールのこれまでの流れの確認

②3つのコミュニティ「夢」「命」「心」における目指す子ども像に関する熟議と全体交流

2)－⑦第7回CS推進委員会（同2月19日（木））

○出席者 中川 縄田 河野 丸山野 釘宮 菅 太田 三浦 佐藤 今石 安達
小原（市教委指導主事） 校長 教頭 教務

○各コミュニティごとの取組の熟議

- ・各コミュニティのめざす子ども像を確認
- ・各コミュニティの取組内容の協議

（４）コミュニティ・スクールとしての取組の方向性

本校が所在する中部地区の行政としての学校支援の拠点は中部地区公民館に置かれており、4つのコミュニティの取組のための人材情報はここに豊富にある。また、コミュニティ・スクールの取組の広報をとおして、地域素材（人）が、地域教材（人財）になり、多くの地域住民が子ども育てに参加していく広がりをつくるために、コミュニティ・スクールと公民館を中心とした各種組織・団体のパートナーシップづくりを進め、テーマの取組をおこなう。

＜「夢」のコミュニティ＞

1) 目指す子ども像

- 夢を語る子ども
- 思いやり、感謝の心を持てる子ども
- 興味を持ち、チャレンジする子ども
- 最後まであきらめない子ども

2) 取組の方向性

①地域人材を活用した「地域の歴史と文化・産業の発展」について学ぶ中で、郷土に対する愛情を育み、学習する楽しさを感じる子どもに！

- ・別府の竹産業や温泉等の地域の教材を活用して、これからの地域を作る人材の必要性を地域住民から直接学ぶことをとおして、児童の学ぶ意欲を高める取り組みをおこなう。

②大学生等による「学びが苦手な児童」の学習支援活動

- ・学校の授業について行けない児童等を対象にした放課後学習教室の見直しや、別府市出身の大学生や別府市在住の大学生等による学力向上・学習意欲の向上につなげる取組をおこなう。

③体験活動の中での豊かな学びの推進

- ・学校教育への支援となる教材としての資源や人材の情報収集、人材バンクへの登録、ゲストティーチャーを招いた授業の推進をおこなう。

『『夢』のコミュニティ』の取り組み計画(当面):キャッチコピー「わかった!」笑顔あふれる石垣探検応援隊」					
学校のエデュ 課題	詳細な現状	めざす子ども像	学校での取り組み	今後の取り組み	評価内容
学習する意 欲が低い。	郷土を愛する気持 ちが低い。 一時的に校区に 住む世帯が多く、 石垣校区に愛着 のある人が少な い。	○夢を語る子ども ○思いやり、感謝の 心を持てる子ども ○興味を持ち、チャレ ンジする子ども ○最後まであきらめ ない子ども	テーマ「地域について調べ学ぶ中で、郷土に対する愛 情を育み、学習する楽しさを感じる子どもに」 ①総合的な学習の時間で、校区の歴史や文化、産業を 学ぶ内容を設定。	①子どもや保護者が、校区の歴史や文化、産業を学ぶ機 会の提供。 ・情報発信(チラシ、HP、各種団体への依頼) ・校区の歴史や文化、産業について詳しく知る人の情報 収集 ・校区の歴史や文化、産業についての情報やそれらを語 ることができる人のデータベース作成。 ・校区の歴史や文化、産業について学ぶ講演会の開催 ・授業の中で、話をしていたり、校外学習で体験し たりする際のゲストティーチャーや学習補助の募集。 (歴史…6年、文化や産業…3、4年 地域の職業体験… 5、6年)	
			テーマ「わからない子どもをなくそう」 ①週2回のドリルタイムで国語と算数の基礎的な問題に 取り組んでいる。 ②放課後25分間の「やり直しタイム」で個別指導に取り 組んでいる。	②分らない子をなくす取り組み ・放課後学習教室の見直し ・放課後学習教室で教える人の募集 ・「やり直しタイム」での学習補助の募集	
体験活動の 不足	教員の経験不足 及び体験学習の ための教材・人材 情報が不足してい る。		テーマ「体験活動の中で豊かな学びを育もう」 ①地域人材等を生かした体験的学習の実施。 ②総合的な学習の時間、生活科のカリキュラムの見直 し。	①体験活動の中での豊かな学びの推進 ・教育支援内容の付加修正 ・情報発信(チラシ、HP、各種団体への依頼) ・教材となる資源や人材の情報収集 ・人材バンクへの登録 ・ゲストティーチャーを招いた授業の推進	

<「心」のコミュニティ>

1) 目ざす子ども像

- 思いやりのある子ども
- 自分を信じ、あきらめない子ども(本を読む子ども)
- 人とつながる良さが分かる子ども(地域とつながる子ども)
- 基本的生活習慣が身についている子ども(早寝早起き朝ごはんの子ども)

2) 取組の方向性

①地域内での子ども同士のつながりや子どもと大人のつながりづくり

- ・子ども会活動に参加する世帯を増やすことや、地域住民の学校への関心を高めるために保護者・地域住民向けの意識調査や情報発信を行う。
- ・学校内の地区児童会の仕組みづくりや、地区別グループ活動の取組をおこなうとともに、運動会等への地域住民の参加を呼びかけ、地区での子どもへの関わりの推進等をおこない、学校に目を向けてもらう取組をおこなう。

②本を読む子ども育て

- ・読み聞かせ講演会の実施や、子どもと本を結ぶ大人活動の啓発活動、朝読書における読み聞かせ活動の充実(地域のボランティアを増やす、学級文庫の充実等を促進する)。

③早寝早起き朝ごはんの子どもの育成

- ・チラシ作成・配布(チラシ掲示による啓発)や早寝早起き朝ごはんの毎日調査(子どもの実態を把握・改善への意識醸成)、眠育講演会(特に親や孫育ての祖父母を対象)等をおこなう。

『心』のコミュニティーの取り組み計画(当面): キャッチコピー「子どもと子ども、大人と大人、子どもと大人がつながり隊」					
テーマ「子どもと子ども、子どもと大人がつながろう」					
子ども(学校)の教育課題	詳細な現状	めざす子ども像	学校での取り組み	今後の取り組み	評価内容
①異学年のつながりが薄い。	①子ども会加入率が低下。 ・自治会未加入世帯増と、加入世帯であっても子ども会へは未入会。 ②校内では縦割りでの集会活動を実施。	○思いやりのある子ども ○自分を信じ、あきらめない子ども (本を読む子ども) ○人とつながるよさが分かる子ども (地域とつながる子ども)	①縦割り(班)での活動 ・遊び ・なかよし集会 (ゲーム、遊び中心) ②5年生と幼稚園の交流 (総合の時間) ③1年生と幼稚園の交流 (生活科の時間) ④地域を意識した集会活動などの実施	①地域における子ども活動の活性化 ・自治会・子ども会加入意識調査 ・地域住民に対する子ども活動情報発信 (通信発行、フェイスブックページ作成) ・子ども活動情報発信会議発足 ・お試し子ども会実施と参加促進 ②地域を意識した特別活動の充実 ・地域別集会活動実施 (学校のなかよし集会を地区別にグループ分けする) (1年・6年のペア、5年・幼稚園の活動を地区別にする)	
②地域の大人とのつながりが薄い。	①地区行事への子どもの参加が少ない。 ②石垣校区青少年健全育成協議会…安全ハットロール・ふれあいラジオ体操とおにぎり大会・小学校運動会での種目 ③地区児童会の未実施 ④ゲストティーチャーとして地域住民が数名活動。 ⑤朝読書の時間に保護者が中心となって読み聞かせ活動を実施しているが、読み聞かせボランティアが減少。	○基本的な生活習慣が身についている子ども (早寝早起き朝ごはんの子ども)	①毎週水・金に朝読書の時間を設定 ②水曜朝読書の時間に、ボランティアによる読み聞かせを実施 ③毎年授業公開日を二日間実施 ④運動会の種目に青少協種目を実施 ⑤PTA主催で、毎年秋に石垣祭を実施	①運動会における石垣校区青少年健全育成協議会種目の改善 ・青少協・自治会との協議 ②地域とつながる子どもの育成 ・学期末に地区児童会を実施 ・なかよし集会で地域の人と交流 ・ゲストティーチャーとして地域住民参加を促進 ③地域住民による子ども活動の充実 ○「本を読む子どもの育成」をとおして ・読み聞かせ講演会の実施 (子どもと本を結ぶ大人活動の啓発活動) ・朝読書における読み聞かせ活動の充実 (地域のボランティアを増やす) ・学級文庫の充実 (県・市立図書館の団体貸出利用・本の寄付を募る等) ○「早寝早起き朝ごはんの子ども育成」をとおして ・チラシ作成・配布 (チラシ掲示による啓発) ・早寝早起き朝ごはんの毎日調査 (子どもの実態を把握・改善への意識醸成) ・眠育講演会の実施 (特に親や孫育ての祖父母を対象)	

<「命」のコミュニティー>

1) 目ざす子ども像

- きまりが守れる子ども
- 命の大切さを知る子ども
- 健康づくりが自分でできる子ども
- 安全づくりが自分で出来る子ども
- 環境づくりが出来る子ども

2) 取組の方向性

①子どもの地域での安全・安心・非行防止の活動

- ・自治会や地域組織、郵便局等と連携して「地域総参加の情報収集・提供」ネットワークづくりを進め、日常的な情報の収集と提供活動を充実して地域での安心・安全、非行防止を推進する
- ・これまでの活動に加えて、老人会や公共浴場等との協力を得ながら、夕方の見守りや生活の中で見守り活動を推進する。
- ・子どもと大人の交流の場を作りながら、子どもと地域住民の協働で作成するハザードマップづくりやあいさつ(声かけ)運動の推進する

②進んで健康な体作りをする子どもの育成

- ・石垣小学校の課題である虫歯処置率を上げるための「歯医者との協力」と保護者の啓発(親育)の取組を行う。
※現在、歯医者マップやカルテ的なものを検討中で、新年度に作成したい。
- ・家庭内の仕事を決めるなどして、家庭での「子どもの役割」づくりの推進して保護者の関わりを深める取組をおこなう。
- ・(重複) あいさつ(声かけ)運動を推進する。

「『命』のコミュニティー」の取り組み計画(当面): キャッチコピー「安全な地域で、安心な子育てのまちづくり隊」

テーマ①地域の様々な人へのお願い協力 テーマ2: 子供と会話を増やす親(PTA活動として)

子ども(学校)の 教育課題	詳細な現状	めざす子ども像	学校でのこれまでの取組	CSとしての今後の取組	評価内容
①学校外での生活情報が見えない(心配)	①学校外(放課後等)の生活 ②登校時の見守り…交通安全 ③下校時・放課後の見守り…不審者・危険な遊び ④安全・変化への啓発・意識づけ ・地区ごとの清掃活動(ゴミ拾い等)・見かけた方がその場で注意・家庭での指導	○きまりが守れる子ども ○命の大切さを知る子ども ○健康づくりが自分でできる子ども ○安全づくりが自分で出来る子ども	①学期に1回校区内補導を行っている。 ②登校指導・下校指導を定期的に行っている。 ③あいさつ運動では、児童も参加し、交通安全を呼びかけている。 ④全校朝会や各学級で「いかにいかに」(知らない人についていけない・車に乗らない・大声をだす・にげる・近くの大人に知らせる)の徹底、登下校時複数で行動すること、帰宅時刻の厳守を常時指導している。	テーマ「子どもの地域での安全・安心・非行防止の活動をしよう」 1. 情報収集・提供の充実 ①どんな人に呼び掛けるか ②お願いする方法 ③情報収集と情報発信の方法 ④作業する人? 2. 学校外の生徒指導活動 ①夕方の見守り ・これまでの活動に加えて、生活の中で見守り活動の推進 ・老人会や公共浴場等との協力 ②ハザードマップづくり ・子どもと地域住民の協働で作成する ③あいさつ(声かけ)運動の推進	
②健康な体作り(虫歯の処置等)	①学校外(放課後等)の生活 ②虫歯の未処置 ・処置完了者が9% (市内30%前後) ・未処置歯のある者63% (市内27%～%) ・子供の歯の状況が気になる保護者95.2% ・家庭で気づけている15% (石垣小4位)	○環境づくり出来る子ども	①処置が必要な児童の家庭にプリントで知らせた。 ②歯の健康について児童と保護者にアンケートをとり、結果を全教職員で共有した。 ③保健だよりで、治療の大切さを呼びかけている。 ④歯の健康についての授業を担当・養護教諭・栄養教諭で連携しながら行った。 2. 地区子ども会を立ち上げる	テーマ「進んで健康な体作りをする子どもを育てよう」 1. こどもだけでも通院できる歯医者を探そう ・子供だけでもいける歯医者とは? ・中心的活動はPTAIにお願いし、歯医者に行かせられない理由を調査や優しい歯医者の一覧表作成 ・保護者へのPR 2. 子どもと子ども、子どもと保護者・住民との繋がりを ①学校主体の地区子ども会活動の立ち上げ ・長期休業中の取組を、保護者や自治等に支援してもらう。 ②家庭での「子どもの役割」づくりの推進 ・家庭内の仕事をさめる ・保護者の関わりをしっかりとってもらう ③(重複)あいさつ(声かけ)運動の推進	

<「親育」のコミュニティ>

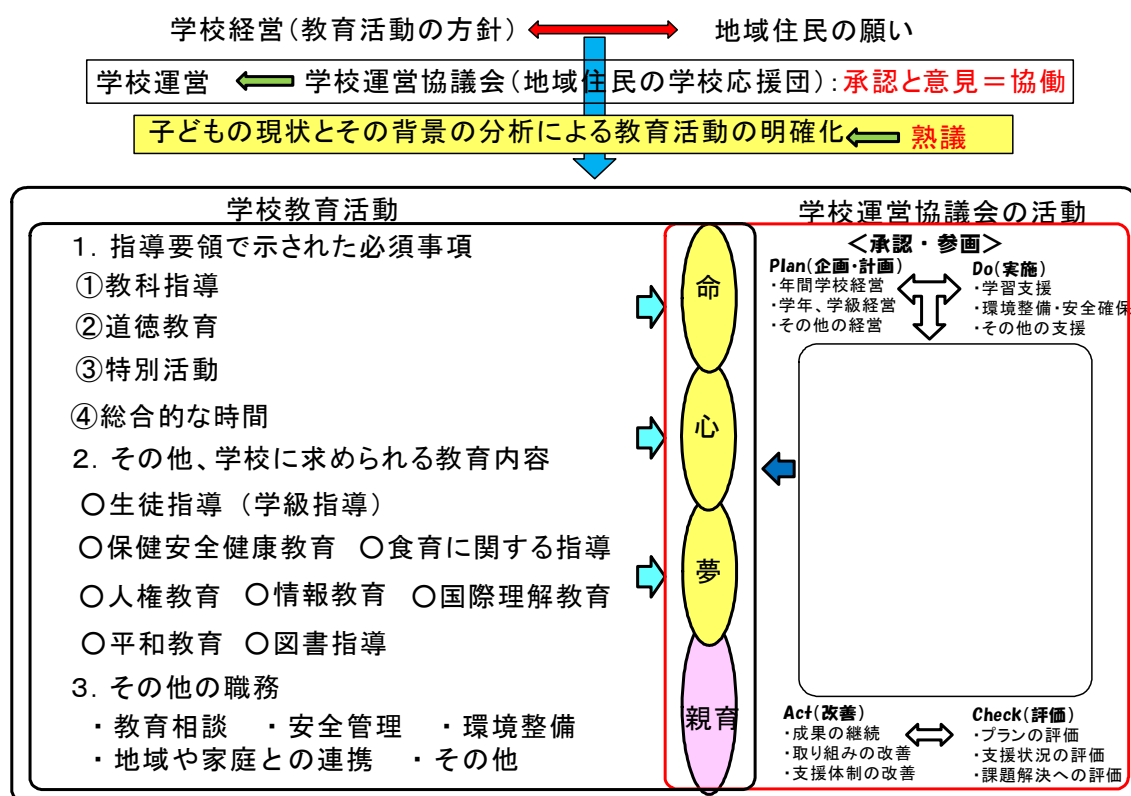
①PTA 活動の取組

- ・全会員の「誘い合う学習会」「子どもと一緒に学習」をテーマとした学びの場を作る。

②保護者の参加の促進

- ・「夢」のコミュニティ、「心」のコミュニティ、「命」のコミュニティのどれかのコミュニティへの参加を促進する。

下図は学校と運営協議会の関係を整理したものであり、コミュニティの共有を示している。



下図は、4つのコミュニティの関係を示しつつ、「学校の願い」「運営協議会としての取組」「評価」、及び体制について示したものである。

